

# 大人も子どももキラキラ輝いて生きよう

山口県下関市 NPO法人Kananowa

「わくわくできるまちに生かされる」

35歳という若さで亡くなられた教師、荒木佳奈さんの果たせなかつた想いを胸に、今できることを行動に移していくために、佳奈さんの輪である佳奈の輪(Kananowa)を2016年の6月に立ち上げました。PTA会長を7年間させていただいたことで、今までは知ることなかった、社会課題を目の当たりにしました。しかし、目の前の課題を解決したくてもPTAという大きな組織を動かすことは難しく、なかなか行動に移していくこともできませんでした。

そこで、思ったこと、今必要なことをすぐ行動に移していくための任意団体で思いを形に変えていくことにしました。この活動は、

「たくさん大人の愛情の輪の中で子どもたちを育てていきたい」という思いが集まった大人たちで構成されています。皆さんからいただいたたくさんのご寄付や、毎日のように送られてくるたくさんのご支援のおかげで、この8年間、たくさんさんの愛情を子どもたちに届けることができたと思います。

地域にはいろんな家庭環境の子どもたちがいます。母子家庭だからとか、父子家庭だからとか、そんなことは関係なく、ご両親がいてもひとり親でも、子どもたちはそれぞれの悩みを抱えながら一生懸命に生きています。だから、一人ひとりに寄り添っていける環境づくりが本当に大切なんだなと感じています。Kananowaでは、親も子どもも照らししていくための照子親(てらこや)活動というも



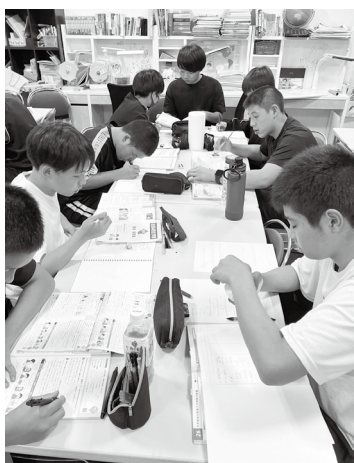
いちご狩り



のを実施しています。親子親活動では、中学校区の子どもたちを対象に、様々な体験学習の場を取り入れていきます。特に自然体験には力を入れており、季節ごとに、自然を感じる機会を設けています。



放課後学習教室



夜の勉強会

4月にはタケノコ掘り、5月にはいちご狩り、6月には蛍の鑑賞会、7～8月にはバス研修で遠出して洞窟探検や青海島のクルーズに出かけたりもします。9月～11月にかけては、カヌー体験や星の観察、紅葉狩りなどを楽しみます。こうした自然体験をする機会が、現代の子どもたちは本当に少なく、家庭だけでは難しい現実もあり、こうした理由から家庭格差・体験格差が生じるのだと思います。共働きの世帯が増えているので、親が参加できなくても、子どもだけで参加できる仕組みをとっているため、毎回80～100名ほどの参加者がいて、大きな家族みたくて楽しいです。

子育て支援の一環として、毎日の夕食支援を実施しています。毎日170～200食の夕食を準備して、働くお母さんをサポートしています。この活動は特に父子家庭のお父様をサポートすることができていて、とても感謝されています。また、小さな子どもを育てるお母さんたちにとっても、夕方忙しい時間に夕食の準備をしなくて済むこと、小さな子どもを連れて、買い物に行かなくていいことなどから、大変喜ばれています。子ども食堂も毎日開催しているため、中高生は毎日通って、学校であったことなどを、楽しそうに話してくれれます。子どもたちは様々な環境で生活しておりますが、家庭の事情などで、夜、

親御さんがいない場合も多々あります。そうした環境のなかでも、当たり前のように地域のみんなで食事ができる環境があることは、親御さんにとっても、子どもたちにとってもとても幸せなことだと思います。親を否定するのではなく、できることで協力すれば、心を開いてくれて、困ったときには頼ってくれる関係になっていきます。困り感を持った家庭とつながることは簡単ではありませんが、このように相手の助かることをどんどん行動に起こしていけたらいいですね。

放課後学習教室も毎日開催しております。ほとんどの子どもたちは放課後の時間をゲームやスマホで過ごします。この時間に子どもたちに居場所や学びの場を提供することで、SNSから離れる時間の確保ができます。9月からは習い事教室を開催し、子どもたちは自分の興味関心のあることに取り組む時間が提供されます。才能を早い段階で見つけて、伸ばしていくためにも、とてもよい取り組みになっていきます。現在12種類の習い事の講師の先生方が登録してくださり、子どもたちのためにお力を貸してくださっています。中には、企業連携事業として開催されている株式会社ミカド公設様の卓球教室や高校生がコーチをするバスケットボール教室や高校生が先生として教えてくれるピアノ教室などもあり、部活動の地域移行のヒントにもなれば幸いです。



Myuプロジェクト

不登校支援もしているのですが、学校に足が向かない子どもたちもKana nowaの事務所にお手伝いをしてくれたり、小学生の学習支援をしてくれたりもします。

と考えております。  
夜の勉強会も毎日開催しております。こちらの対象者は中高生で、40〜50人程が登録しています。家庭の状況によっては、塾に行かせられない家庭もたくさんあります。学校の授業についていけない子どもたちもたくさんいます。そうした子どもたちを取りこぼすことなく、なるべく早い段階で手を差し伸べて寄り添っていくことが大切です。学力の低い子どもたちは自己肯定感が低い傾向にあると思います。ですが、学力だけではなく、努力を続けることへの評価など、とにかく子どもたちを褒めて褒めて、寄り添うことで、自然と自己

肯定感も上がってくるように感じます。実際の学力も上がった子どもがほとんどです。

もちろん学習を頑張っている子どももいます。全国の不登校者が33万人といわれる現代において、学校に行かない選択をした子どもたちが学習したり、自分の将来へのビジョンを持つたりする機会の提供は大人が考えていかなければならないことです。Kana nowaでは、9月3日にカフェスペースをつくり、営業許可もとりました。菓子工房あり、様々な展開が期待されています。学校に行かなくても、なにかしら自分の将来につなげていくことができるといいます。

ものすごいスピードで時代は流れ、しかも社会課題は山積していくばかりです。そのため居場所づくりをしている私たちの担うことも多くなってきました。目の前の課題に迅速に対応していけるように、形にとらわれず、本当に大切なことから目をそらさずに、行動に移していけたらいいと思います。

Myuプロジェクトでは、林兼産業さんの規格外商品を、調理科の子どもたちが加工して、地域の皆さんに寄付という形で購入していただいています。その売り上げは、子どもの夢応援基金として、子どもたちが抱いている夢の一步のために使われます。例えば歌手を目指している高校生には、Myuの売り上げからボイストレーニングのレッスン料を出したり、工作が得意な子どもたちのガムテープ代なども出しています。9月から始まる習い事



8周年記念動画鑑賞会

教室の消耗品などもMyuから出してもらっています。企業や農家さんたちの協力のもと、自分の得意なことで子どもたちが協力してお金を稼ぐ体験をさせていただき、さらにはそのお金で、子どもたちの夢を応援するという、すごく素敵な循環ができました。こうしたわくわくする地域の関わりの中で育っていく子どもたちが、これからどんな社会を創っていくのが楽しみです。

(NPO法人Kana nowa

理事長 前田亜樹)